平成 30 年 5 月 16 日
九 州 地 方 整 備 局
大隅河川国道事務所

平成３０年土石流調査情報（桜島地域） 第１０報

（通算第 197 号）

○ 桜島の噴火による平成 30 年 3 月の降灰量は、桜島の火山活動が活発になった平成 21 年～平成 29 年における３月の降灰量の平均と比較して約 0.4 倍となっています。

○ 桜島における平成 21 年～平成 29 年の 4 月における土石流の発生回数の平均は 1.9 回であり、平成 30 年 4 月の土石流発生回数は、５回です。

１ 桜島の噴火による降灰の状況

平成 30 年 3 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの約１ヶ月の桜島 18 カ所の降灰量観測所における最大の降灰量は、有村川（Ｎｏ.15）で 1.4kg/㎡でした。また、降灰量の 18 観測所の３月の降灰量は、平成 21 年～29 年における３月の降灰量の平均と比較し約 0.4 倍となっています。

資料－１ 桜島の降灰量図
資料－２ 降灰状況
資料－３ 平成２１年～平成 29 年 3 月における降灰量の平均及び平成 30 年 3 月の降灰量比較

２ 土石流の発生状況

平成30年4月1日～30日の間、桜島の１１河川において4月6日に有村川で１回、4月14日には野尻川、有村川、黒神川でそれぞれ1回、4月24日に野尻川で1回、合計5回土石流が発生しました。

図－１ 桜島の直轄河川位置図（全11河川）
資料－４ 平成29年及び平成30年（1月～4月）の土石流発生回数比較
資料－５ 各渓流における土石流発生状況（平成29年1月～及び平成30年4月）
資料－６ 年間（暦年）・河川別土石流発生回数

３ 土石流災害の危険性

平成２８年・２９年の桜島における土石流の発生回数は、平成２８年は２５回、平成２９年は１７回と爆発・噴火回数が活発な時期に比べ若干少なくなっていますが、平成２８年に１５３回まで減少した噴火・爆発回数は、平成２９年には４０６回と増加しており、本年に入っても少量の雨で土石流が発生する状況は継続しています。

鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような

大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので今後も、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

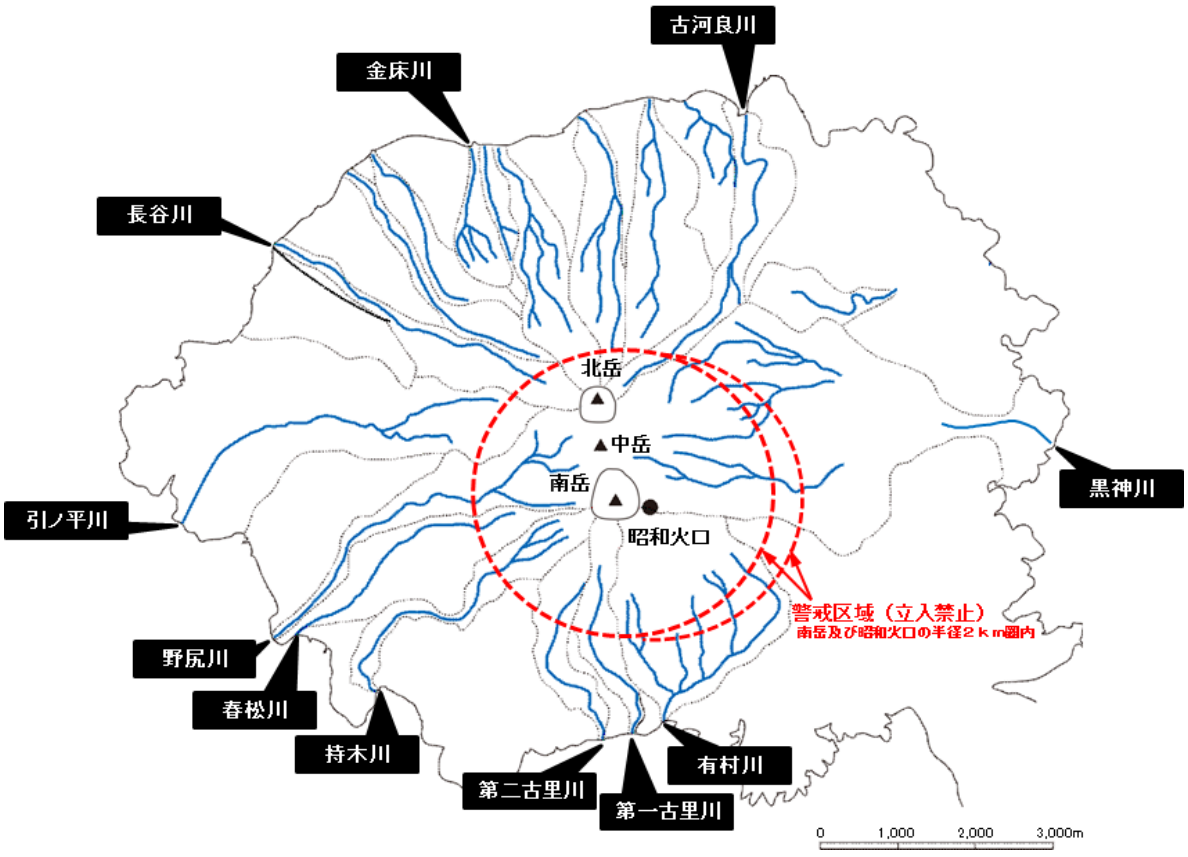
資料－７　年間（暦年）・土石流発生と噴火回数の関係

資料－８　土石流発生直前の降水量（平成 21 年 3 月 1 日～平成 30 年 4 月 30 日）

４　今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第 31 条第 2 項に基づく情報の随時提供です。



図－１　桜島の直轄河川位置図（全 11 河川）